

平成28年6月15日

国土交通大臣 石井啓一 様
国土交通省九州地方整備局長 小平田浩司 様
国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所 所長 宮成秀一郎 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

熊本地震後も立野ダム建設に問題はないとする 国土交通省の記者発表に対する抗議文

私どもは国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所長に対し、去る4月28日、「人命・財産を危険にさらす立野ダム建設の即時中止を求める要請書」を提出し、①熊本県民の人命・財産を危険にさらす立野ダム建設を即時に中止すること、②立野ダム建設予定地周辺の岩盤や活断層、地すべりなどについての十分な調査を行い、流域住民に対し説明責任を果たすこと、の2点を要請しました。

ところが貴省は、早々に現場復旧工事を開始し、6月3日には「地震後の立野ダムに関わる区域の状況について(第2報)」と題する記者発表を行いました。資料を見て驚きました。国交省の主張は、まわりがどれだけ崩れても、立野ダム本体をつくる場所は「大規模な崩落は発生していない」。すぐ近くを活断層が通っても、「立野ダム本体に向かわない」ということです。同資料3ページの「25の断層」に関しては、「断層による変位地形は認められない」等との記述がありましたが、同地点の仮排水路トンネルの出口付近の岩盤は崩落しています。また、研究機関の資料の引用に関しても、国土交通省に都合の良い点ばかりを引用しています。

ダム本体をどれだけ丈夫に造っても、まわりの地盤が壊れたら使えなくなるし、危険であることは明かです。一連の地震のあと、立野ダム予定地周辺では断層の調査やボーリング調査、地盤の動きを調べる調査などが十分に行われているとは考えられません。また貴省は、第三者を交えた地質調査を行うとされていますが、国土交通省が依頼した専門家はとて「第三者」とは言えません。

今回のような大規模な土砂崩壊が起きれば、幅わずか5mの立野ダム下部の穴はたちまち土砂や岩石、流木等でふさがり、ダムは満水になります。ダム満水時に今回の様な土砂崩壊が起これば、ダム津波がダム本体を乗り越え、下流の大津町、菊陽町、熊本市を襲います。今回の一連の地震で、どの程度の土砂や流木等が立野ダム水没予定地に流れ込んだのか、貴省は把握しているのでしょうか。

関係者からの情報では、立野ダムの試掘坑(横坑トンネル)が壊れたという話も耳にしています。そのような中、現実を直視せず、あくまでも立野ダム本体を造ろうとする国土交通省の姿勢に強く抗議するとともに、以下4点について再度強く要請するものです。

記

1. 熊本県民の人命・財産を危険にさらす立野ダム建設を即時に中止すること。
2. 立野ダム建設予定地周辺の岩盤や活断層、地すべりなどについての十分な調査を行い、流域住民に対し説明責任を果たすこと。
3. 立野ダムの試掘坑(横坑トンネル)が壊れたとの情報について明らかにすること。その他、今回の地震で立野ダムの工事現場でどのような被害があったのか、明らかにすること。
4. 今回の地震で何立方メートルの土砂や流木等が立野ダム水没予定地に流れ込んだのか、明らかにすること。

以上